



令和5年度版



くらしと リサイクル



はじめに

わたしたちが生活する上でかならず出るごみ。
ごみ問題は、わたしたちが住んでいる地球かんきょう問題に大きく関わっています。

長崎市役所では、市民のみなさんにきょう力をしてもらいながら、ごみをしまつするためのしせつをつくったり、仕組みを整えたりして、ごみを正しくしまつし、有こうにリ用するための仕事をしています。

みなさんは、この「くらしとリサイクル」を手がかりにして、長崎市のごみをしまつする方法や、リサイクル（さい生り用）の様子を学び、みなさんにできることを考えてみましょう。



もくじ

- 1 ごみはどんなところから出ているかな？ ……………1
- 2 ながさきし 長崎市のごみはどのくらい出ているのだろう？ …3
- 3 ごみはどんなふうに分けるの？ ……………6
- 4 ごみはどこへ行くの？ ……………7
- 5 わたしたちにできること …………… 13
- 6 しりょう 資料 …………… 15



はじめまして！わたしは長崎市のリサイクルイメージキャラクター「ハローリサちゃん」！いっしょにごみのことを、勉強しましょう！

ほくは「わけるくん」！
リサイクルって言葉はよく聞くけど・・・
よくわからないなあ。ほくといっしょに勉強しよう！



わしは「ごみリサイクルはかせ」じゃ。
みんなに長崎市のごみのしまつについて知ってもらうためにがんばっているぞ。
「リサイクル」とは、ごみとして出されたものを、さい生り用するということなんじゃ。これからくわしく勉強していこう。



1 ごみはどんなところから出ているかな？



うわあ……たくさんのごみ。
でもこれっていったいどこから出
ているものなの？



ごみはこのような身近なところからたくさん出ているんじゃよ。それぞれどんなごみが出ているか考えてみよう。



ごみはどのような場所から出されたかによって、しまつする方法にも決まりがあるんです。

- ごみは、ごみステーションに出す方法と、せん門の人にお願いしてしまつする方法があります。
- ごみステーションは、家庭から出たごみを出すところです。
- 病院や会社や学校から出たごみは、せん門のしよ理業者にたのまないといけません。



生活の中からごみが出ていることがわかったかろう？
では、次に、わたしたちが住んでいるこの長崎市でどのくらいのごみが出ているか見てみよう。

2 長崎市のごみはどのくらい出ているのだろう？

★長崎市で1日に出るごみ

令和3年度

374トン

(令和2年度は384トン)

パッカー車の台数にすると
やく208台分



※パッカー車1台あたり1.8tで計算

わたしたちの体重にすると
やく12,500人分



※1人あたりの体重を30kgで計算

★ごみをしまつするためにひつようなお金

単位：億円



★1年間でひつようなお金 (令和3年度)

●1人あたり

●1世帯あたり



14,492円

(令和2年度は14,244円)



31,205円

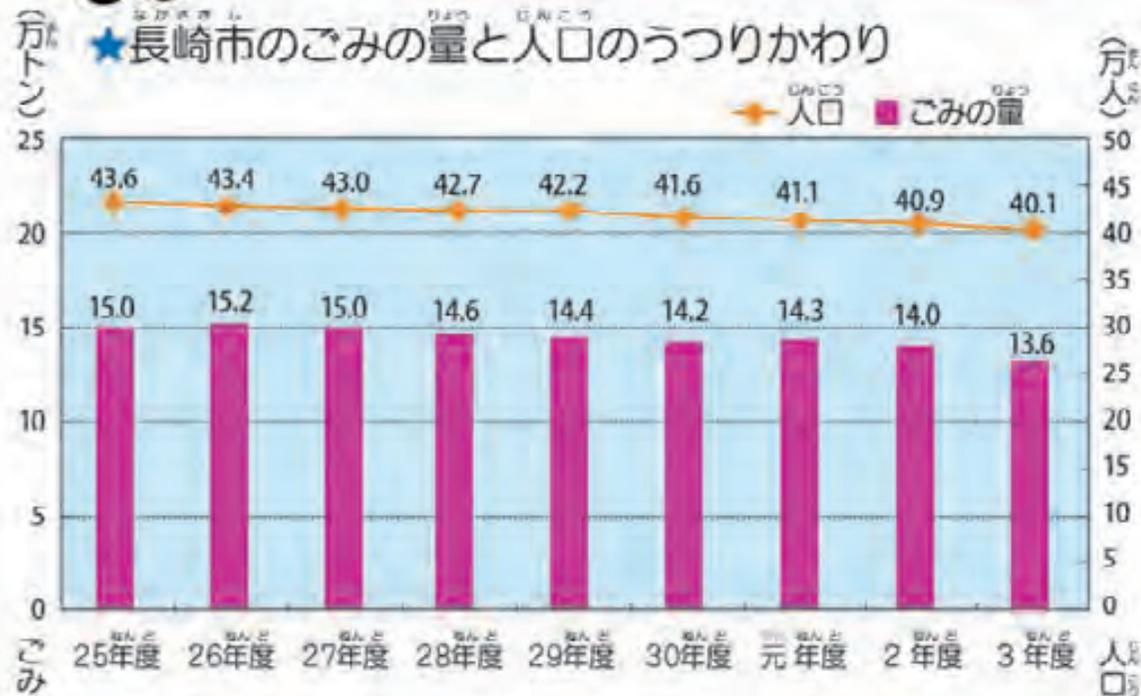
(令和2年度は31,088円)

ごみのしまつにはたくさんのお金がかかるんじゃよ。
ごみをへらすためにはみんなのきょう力がひつようじゃ。
このままたくさんのごみを出されたら、どうなるかな？

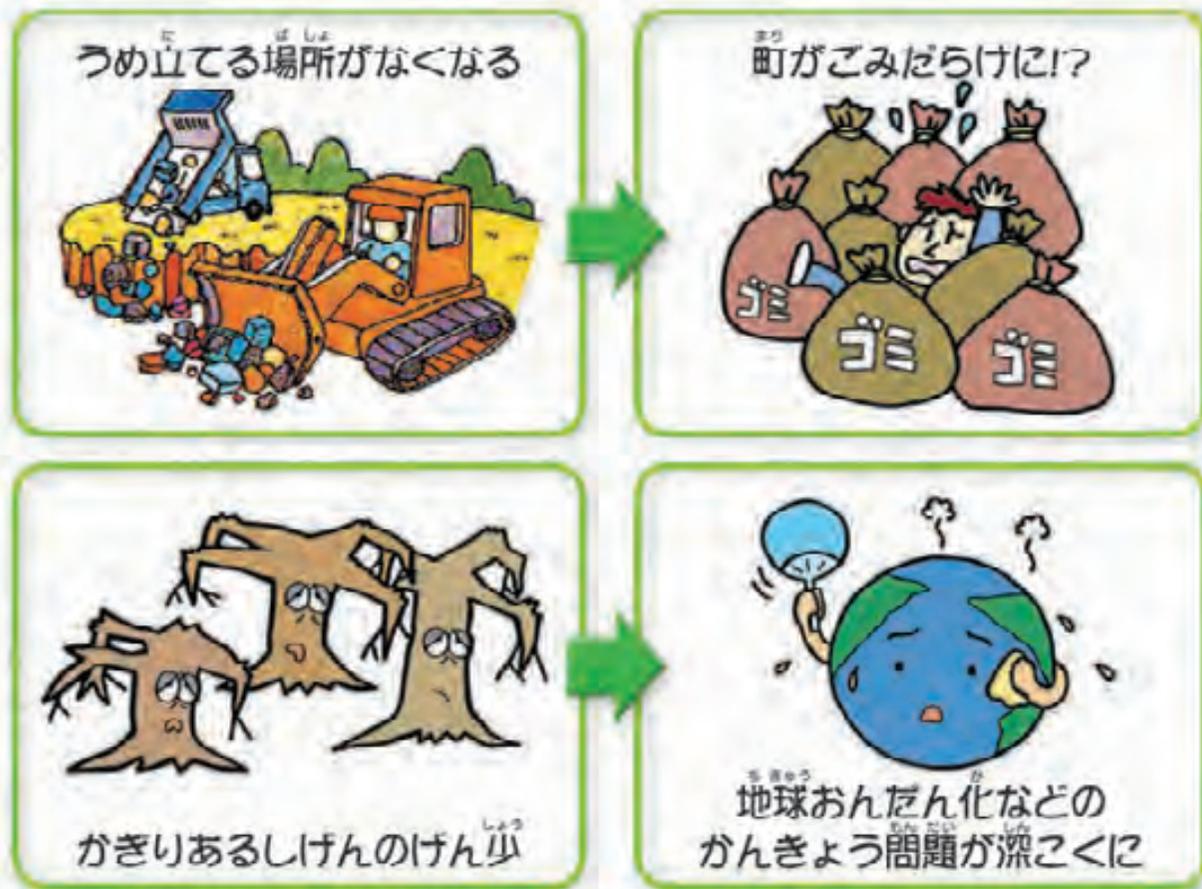


1日でこんなにたくさんのごみが出ています！！

★長崎市のごみの量と人口のうつりかわり



★このままどんどんごみを出しつづけると・・・



こんな事になったらたいへん!
だから・・・

- ①: ごみの量をへらす**
自分が取り組めることを考えてみよう。
- ②: ごみを出すときはきちんと分べつ!**
分べつすれば、ふたたびしげんとしてリサイクルできるものがあります。

3 ごみはどんなふうに分けるの?



みんな、ごみを分けることの大切さはわかりましたか?
では、長崎市のごみの分け方をみてみましょう!

〈長崎市のごみの分け方〉



長崎市のごみは、このように10しゅるいに分けて出すようになっているのじゃ。
ごみステーションに出されたごみは長崎市が集めて、しまつしているのじゃよ。



ごみステーション

パッカー車が集める



それぞれのごみしょ理しせつへ・・・
ごみしょ理しせつってなんだろう・・・?
ごみはどこへ行ってしまうのかな?

4 こみはどこへ行くの？

● もやせるごみ



決められた曜日にごみステーションに出されたもやせるごみは、長崎市が集め、東工場か西工場でもやしたあと、灰を三京クリーンランドでうめています。

もやせるごみのゆくえ



パッカー車がごみピットにごみを落とす



ちりゅうピットでごみを一時ためておく



炉の中にごみを入れる



灰を三京クリーンランドのうめ立てしよ分場にうめる



850℃～1,000℃でかん全にもやす



もやせるごみのふくろの中に、金ぞくなど、ちがうものがたくさん入っていてごまっておる。ちがうものをもやしたら工場がいたんでしまうのじゃよ。

● もやせないごみ



決められた曜日にごみステーションに出されたもやせないごみは、長崎市が集め、三京クリーンランドでうめています。

もやせないごみのゆくえ



パッカー車がうめ立て地へごみを落とす



きかいでごみをつぶして、土をかぶせてうめる

うめ立てしよ分場では、風でごみがとばないように、大きなきかいでごみをつぶして、土をかぶせているのじゃ。これをサンドイッチ工法というのじゃ。においをおさえるためにも役に立つのじゃよ。



長崎市には、ここがいっぱいになったら他にごみをうめるところがありません！ここを少しでも長く使うために、うめるごみを少なくしなければいけないんです！



平成28年に西工場が新しくたてかえられました。ごみをもやした時に出るはいきガスをきれいにできるようになったので、平成28年7月からそれまでもやせないごみだったプラスチックせいひん（ハンガーやバケツなど）、ゴムせいひん、かわせいひんがもやせるごみになりました。

● プラスチックせいようきほうそう 

リサイクルする



決められた曜日にごみステーションに出されたプラスチックせいようきほうそうは、長崎市が集め、まちがって出されたごみや、よごれているものを三京クリーンランドが東工場のせんべつしせつで人の手で取りのぞいたあと、リサイクル工場に運ばれて生まれかわります。

プラスチックせいようきほうそうのゆくえ



● しげんごみ

リサイクルする



決められた曜日にごみステーションに出されたしげんごみは、長崎市が集め、まちがって出されたごみや、よごれているものをせんべつしせつで人の手で取りのぞいて、しゅるいごとに分けたあと、リサイクル工場に運ばれて生まれかわります。

しげんごみのゆくえ



● 古紙 (新聞・ざっし・だんボール)



● けい光とう、つつがたかん電池・ボタン電池



● そでごみ

- 木せい品は **もやす**
- 金ぞくせい品は **リサイクルする**
- その他は **うめる**



こんなにいっぱいリサイクルできるものがあるなんて知らなかったよ。
ごみにもそれぞれ行きたい場所があるんだね。きちんとリサイクルするためには、まずはごみをしゅるいごに分けることが大切なんだ。

きちんと分ければ新しくしげんとしてリサイクルできます。もう一度、長崎市のごみの分けかたをかくにんしましょう!!



～分べつクイズ～

それぞれ、何色のふくろに分べつされるかな? 考えてみよう。



① ほうちょう 	② べんとうがら 	③ 化粧びん 	④ ハブラシ
⑤ バッグ 	⑥ 空きかん 	⑦ スニーカー 	⑧ レジぶくろ
⑨ フライパン 	⑩ とろろ 	⑪ かさ 	⑫ ペットボトルのラベルやふた

ごみの分べつについては、よくわかったかの?
出したごみはきちんと分べつ! しっかりリサイクル!
しかし、分べつの他にも、わたしたちにできることがあるのじゃよ。



⑥⑨⑬... 黄色 ⑫⑧②... 黄色 ⑪⑩①... 青色 ⑦⑤④... 赤色 ③⑥⑩

5 わたしたちにできること



町中をよく見てみよう。
よく見てみると、ごみが落ちていないかな？
ごみはきちんともって帰ろう！
町がきれいだと気分がいいね！



新しいものがだいすき！！もっているのに新しいものを
買ったりにまだ使えるものをすてていないかな？
こわれていないものは、長く大事に使おう！



ついでにあれも買っちゃえ！おまけやふろくにつ
られたり、むだなものを買ったり、もらったり
していないかな？
すぐいらなくなって、すててしまったらもったいないね。
本当にひつようなものかもういちど考えてみよう！



★もったいない！ みんなでなくそう 食品ロス

食品ロスとは

食品ロスとは、まだ食べられるのにすてられている
食べ物のことです。日本では1年でやく 570 万ト
ンの食品ロスが出ています。これは、日本中の人
が1人1日あたりおちゃわん1ばいぶんの食べ物をす
てている計算になるんですよ！



食品ロスはもったいない
のう。のこさず食べてく
れば、ごみはへってみ
んなの成長の助けにもな
るのじゃ。



食品ロスをへらすために

きれいなものをのこさず食べよう！
ごはんの前におかしを食べないようにしよう！
れいぞうこを見てひつようなものだけを買おう！



ぼくもこれからは
すききれいなく、
のこさず食べるよ
うにするよ！

ごみへらしのきほん「4R(アール)」

① Refuse リフューズ ことわる!

いらぬものやひつようなものはことわりましょう



レジぶくろをもらわない



プレゼントのつつみは
かんたんにしてもらう

② Reduce リデュース へらす!

使いすてのものは、買わずごみになるものをへらしましょう



シャンプーなどは
つめかえ用を使う

③ Reuse リユース もういちど使う!

「もういらぬ」と思ったものをひとくふう、もう一度使いましょう



いらなくなったものは
他にいる人がいないか
さがす

④ Recycle リサイクル さいりようする!

ごみになったものを新しいさいりようにします



ごみをきちんと分べつする

★じょうずにリサイクルするには…

ごみぶくろに入れる前に



おべんとうやペットボトルなど
のようきは、軽く水あらいをし
てよこれを落としてからごみぶ
くろに入れましょう！



プラスチックせいようきほうそ
うのごみぶくろに入れるときは、
バラバラにして入れましょう！



4Rの中で、
みんなもで
きることを
考えてみて
ね！

ロとくちメモ



キャップくるくるリサイクル

をすいしんしています！

長崎市はペットボトルのふたを学校であつめることをおうえんしています！

6 資料 ごみのしまつのうつりかわり年表

昭和時代		大正時代		明治時代	
昭和五四 九七九	木崎焼却場を建てかえて、西工場とする。	大正八 一九一九	市役所が直接ごみのしまつを始める。	明治二七 九〇四	今の毛井百町に、せん門の人がごみ焼却場をつくり、ごみをもやし始める。
昭和四七 九七一	家庭のごみ集めを無料にする。	昭和二八 一九六〇	ごみ集めにはじめてトラックが使われる。	八八九	長崎が市になり、市役所がせん門の人にごみのしまつをまかせる。
昭和四六 九七一	ポリ袋を使うごみ集めの区域をほとんど市内全域に広め、週二回のごみ集めを始める。	昭和四五 一九六〇	ごみ集めにはじめてトラックが使われる。		
昭和四二 九六八	東長崎ごみ焼却場（東工場）ができる。	昭和四一 一九六六	ごみ箱をやめて、ポリ袋に入れ、ステーションに出されたごみを集めはじめる。		
昭和四一 九六七	長与町にコンポスト工場ができる。	昭和四〇 一九六二	木崎焼却場ができる。		
昭和三〇 一九四九		昭和三九 一九五四	ごみ集めにはじめてトラックが使われる。		
昭和二八 一九四八		昭和二七 一九五三	今の深堀町一丁目野牛島に、はじめての市営焼却場ができる。		
昭和二七 一九四七		昭和二六 一九五二			
昭和二六 一九四六		昭和二五 一九五〇			
昭和二五 一九四五		昭和二四 一九四九			
昭和二四 一九四四		昭和二三 一九四八			
昭和二三 一九四三		昭和二二 一九四七			
昭和二二 一九四二		昭和二一 一九四六			
昭和二一 一九四一		昭和二〇 一九四五			
昭和二〇 一九四〇		昭和一九 一九四四			
昭和一九 一九三九		昭和一八 一九四三			
昭和一八 一九三八		昭和一七 一九四二			
昭和一七 一九三一		昭和一六 一九四一			
昭和一六 一九三〇		昭和一五 一九四〇			
昭和一五 一九二九		昭和一四 一九三九			
昭和一四 一九二八		昭和一三 一九三八			
昭和一三 一九二七		昭和一二 一九三七			
昭和一二 一九二六		昭和一一 一九三六			
昭和一一 一九二五		昭和一〇 一九三五			
昭和一〇 一九二四		昭和九 一九三二			
昭和九 一九二三		昭和八 一九三一			
昭和八 一九二二		昭和七 一九三〇			
昭和七 一九二一		昭和六 一九二九			
昭和六 一九二〇		昭和五 一九二八			
昭和五 一九一九		昭和四 一九二七			
昭和四 一九一八		昭和三 一九二六			
昭和三 一九一七		昭和二 一九二五			
昭和二 一九一六		昭和一 一九二四			
昭和一 一九一五		昭和 一九二三			
昭和 一九一四		昭和 一九二二			
昭和 一九一三		昭和 一九二一			
昭和 一九一二		昭和 一九二〇			
昭和 一九一一		昭和 一九一九			
昭和 一九一〇		昭和 一九一八			
昭和 一九〇九		昭和 一九一七			
昭和 一九〇八		昭和 一九一六			
昭和 一九〇七		昭和 一九一五			
昭和 一九〇六		昭和 一九一四			
昭和 一九〇五		昭和 一九一三			
昭和 一九〇四		昭和 一九一二			
昭和 一九〇三		昭和 一九一一			
昭和 一九〇二		昭和 一九一〇			
昭和 一九〇一		昭和 一九〇九			
昭和 一九〇〇		昭和 一九〇八			
昭和 一九九九		昭和 一九〇七			
昭和 一九九八		昭和 一九〇六			
昭和 一九九七		昭和 一九〇五			
昭和 一九九六		昭和 一九〇四			
昭和 一九九五		昭和 一九〇三			
昭和 一九九四		昭和 一九〇二			
昭和 一九九三		昭和 一九〇一			
昭和 一九九二		昭和 一九〇〇			
昭和 一九九一		昭和 一九九九			
昭和 一九九〇		昭和 一九九八			
昭和 一九八九		昭和 一九九七			
昭和 一九八八		昭和 一九九六			
昭和 一九八七		昭和 一九九五			
昭和 一九八六		昭和 一九九四			
昭和 一九八五		昭和 一九九三			
昭和 一九八四		昭和 一九九二			
昭和 一九八三		昭和 一九九一			
昭和 一九八二		昭和 一九九〇			
昭和 一九八一		昭和 一九八九			
昭和 一九八〇		昭和 一九八七			
昭和 一九七九		昭和 一九八六			
昭和 一九七八		昭和 一九八五			
昭和 一九八七	三京クリーンランド樹立処分場ができる。	昭和 一九八四	長与町にあるコンポスト工場をとじる。	昭和 一九八三	乾燥池を有害ごみとして、別に集め始める。
昭和 一九八六		昭和 一九八二	東工場を建てかえる。	昭和 一九八一	ごみを集める日が、もやせるごみ週三回、もやせないごみ週一回となる。
昭和 一九八五		昭和 一九八〇		昭和 一九八〇	
昭和 一九八四		昭和 一九七九		昭和 一九七九	
昭和 一九八三		昭和 一九七八		昭和 一九七八	
昭和 一九八二		昭和 一九七七		昭和 一九七七	
昭和 一九八一		昭和 一九七六		昭和 一九七六	
昭和 一九八〇		昭和 一九七五		昭和 一九七五	
昭和 一九七九		昭和 一九七四		昭和 一九七四	
昭和 一九七八		昭和 一九七三		昭和 一九七三	
昭和 一九八七		昭和 一九七二		昭和 一九七二	
昭和 一九八六		昭和 一九七一		昭和 一九七一	
昭和 一九八五		昭和 一九七〇		昭和 一九七〇	
昭和 一九八四		昭和 一九六九		昭和 一九六九	
昭和 一九八三		昭和 一九六八		昭和 一九六八	
昭和 一九八二		昭和 一九六七		昭和 一九六七	
昭和 一九八一		昭和 一九六六		昭和 一九六六	
昭和 一九八〇		昭和 一九六五		昭和 一九六五	
昭和 一九七九		昭和 一九六四		昭和 一九六四	
昭和 一九七八		昭和 一九六三		昭和 一九六三	
昭和 一九八七		昭和 一九六二		昭和 一九六二	
昭和 一九八六		昭和 一九六一		昭和 一九六一	
昭和 一九八五		昭和 一九六〇		昭和 一九六〇	
昭和 一九八四		昭和 一九五九		昭和 一九五九	
昭和 一九八三		昭和 一九五八		昭和 一九五八	
昭和 一九八二		昭和 一九五七		昭和 一九五七	
昭和 一九八一		昭和 一九五六		昭和 一九五六	
昭和 一九八〇		昭和 一九五五		昭和 一九五五	
昭和 一九七九		昭和 一九五四		昭和 一九五四	
昭和 一九七八		昭和 一九五三		昭和 一九五三	
昭和 一九八七		昭和 一九五二		昭和 一九五二	
昭和 一九八六		昭和 一九五一		昭和 一九五一	
昭和 一九八五		昭和 一九五〇		昭和 一九五〇	
昭和 一九八四		昭和 一九四九		昭和 一九四九	
昭和 一九八三		昭和 一九四八		昭和 一九四八	
昭和 一九八二		昭和 一九四七		昭和 一九四七	
昭和 一九八一		昭和 一九四六		昭和 一九四六	
昭和 一九八〇		昭和 一九四五		昭和 一九四五	
昭和 一九七九		昭和 一九四四		昭和 一九四四	
昭和 一九七八		昭和 一九四三		昭和 一九四三	
昭和 一九八七		昭和 一九四二		昭和 一九四二	
昭和 一九八六		昭和 一九四一		昭和 一九四一	
昭和 一九八五		昭和 一九四〇		昭和 一九四〇	
昭和 一九八四		昭和 一九三九		昭和 一九三九	
昭和 一九八三		昭和 一九三八		昭和 一九三八	
昭和 一九八二		昭和 一九三七		昭和 一九三七	
昭和 一九八一		昭和 一九三六		昭和 一九三六	
昭和 一九八〇		昭和 一九三五		昭和 一九三五	
昭和 一九七九		昭和 一九三四		昭和 一九三四	
昭和 一九七八		昭和 一九三三		昭和 一九三三	
昭和 一九八七		昭和 一九三二		昭和 一九三二	
昭和 一九八六		昭和 一九三一		昭和 一九三一	
昭和 一九八五		昭和 一九三〇		昭和 一九三〇	
昭和 一九八四		昭和 一九二九		昭和 一九二九	
昭和 一九八三		昭和 一九二八		昭和 一九二八	
昭和 一九八二		昭和 一九二七		昭和 一九二七	
昭和 一九八一		昭和 一九二六		昭和 一九二六	
昭和 一九八〇		昭和 一九二五		昭和 一九二五	
昭和 一九七九		昭和 一九二四		昭和 一九二四	
昭和 一九七八		昭和 一九二三		昭和 一九二三	
昭和 一九八七		昭和 一九二二		昭和 一九二二	
昭和 一九八六		昭和 一九二一		昭和 一九二一	
昭和 一九八五		昭和 一九二〇		昭和 一九二〇	
昭和 一九八四		昭和 一九一九		昭和 一九一九	
昭和 一九八三		昭和 一九一八		昭和 一九一八	
昭和 一九八二		昭和 一九一七		昭和 一九一七	
昭和 一九八一		昭和 一九一六		昭和 一九一六	
昭和 一九八〇		昭和 一九一五		昭和 一九一五	
昭和 一九七九		昭和 一九一四		昭和 一九一四	
昭和 一九七八		昭和 一九一三		昭和 一九一三	
昭和 一九八七		昭和 一九一二		昭和 一九一二	
昭和 一九八六		昭和 一九一一		昭和 一九一一	
昭和 一九八五		昭和 一九一〇		昭和 一九一〇	
昭和 一九八四		昭和 一九〇九		昭和 一九〇九	
昭和 一九八三		昭和 一九〇八		昭和 一九〇八	
昭和 一九八二		昭和 一九〇七		昭和 一九〇七	
昭和 一九八一		昭和 一九〇六		昭和 一九〇六	
昭和 一九八〇		昭和 一九〇五		昭和 一九〇五	
昭和 一九七九		昭和 一九〇四		昭和 一九〇四	
昭和 一九七八		昭和 一九〇三		昭和 一九〇三	
昭和 一九八七		昭和 一九〇二		昭和 一九〇二	
昭和 一九八六		昭和 一九〇一		昭和 一九〇一	
昭和 一九八五		昭和 一九〇〇		昭和 一九〇〇	
昭和 一九八四		昭和 一九九九		昭和 一九九九	
昭和 一九八三		昭和 一九九八		昭和 一九九八	
昭和 一九八二		昭和 一九九七		昭和 一九九七	
昭和 一九八一		昭和 一九九六		昭和 一九九六	
昭和 一九八〇		昭和 一九九五		昭和 一九九五	
昭和 一九七九		昭和 一九九四		昭和 一九九四	
昭和 一九七八		昭和 一九九三		昭和 一九九三	
昭和 一九八七		昭和 一九九二		昭和 一九九二	
昭和 一九八六		昭和 一九九一		昭和 一九九一	
昭和 一九八五		昭和 一九九〇		昭和 一九九〇	
昭和 一九八四		昭和 一九八九		昭和 一九八九	
昭和 一九八三		昭和 一九八七		昭和 一九八七	
昭和 一九八二		昭和 一九八六		昭和 一九八六	
昭和 一九八一		昭和 一九八五		昭和 一九八五	
昭和 一九八〇		昭和 一九八四		昭和 一九八四	
昭和 一九七九		昭和 一九八三		昭和 一九八三	
昭和 一九七八		昭和 一九八二		昭和 一九八二	
昭和 一九八七		昭和 一九八一		昭和 一九八一	
昭和 一九八六		昭和 一九八〇		昭和 一九八〇	
昭和 一九八五		昭和 一九七九		昭和 一九七九	
昭和 一九八四		昭和 一九七八		昭和 一九七八	
昭和 一九八三		昭和 一九七七		昭和 一九七七	
昭和 一九八二		昭和 一九七六		昭和 一九七六	
昭和 一九八一		昭和 一九七五		昭和 一九七五	
昭和 一九八〇		昭和 一九七四		昭和 一九七四	
昭和 一九七九		昭和 一九七三		昭和 一九七三	
昭和 一九七八		昭和 一九七二		昭和 一九七二	
昭和 一九八七		昭和 一九七一		昭和 一九七一	
昭和 一九八六		昭和 一九七〇		昭和 一九七〇	
昭和 一九八五		昭和 一九六九		昭和 一九六九	
昭和 一九八四		昭和 一九六八		昭和 一九六八	
昭和 一九八三		昭和 一九六七		昭和 一九六七	
昭和 一九八二		昭和 一九六六		昭和 一九六六	
昭和 一九八一		昭和 一九六五		昭和 一九六五	
昭和 一九八〇		昭和 一九六四		昭和 一九六四	
昭和 一九七九		昭和 一九六三		昭和 一九六三	
昭和 一九七八		昭和 一九六二		昭和 一九六二	
昭和 一九八七		昭和 一九六一		昭和 一九六一	
昭和 一九八六		昭和 一九六〇		昭和 一九六〇	
昭和 一九八五		昭和 一九五九		昭和 一九五九	
昭和 一九八四		昭和 一九五八		昭和 一九五八	
昭和 一九八三		昭和 一九五七		昭和 一九五七	
昭和 一九八二		昭和 一九五六		昭和 一九五六	
昭和 一九八一		昭和 一九五五		昭和 一九五五	
昭和 一九八〇		昭和 一九五四		昭和 一九五四	
昭和 一九七九		昭和 一九五三		昭和 一九五三	
昭和 一九七八		昭和 一九五二		昭和 一九五二	
昭和 一九八七		昭和 一九五一		昭和 一九五一	
昭和 一九八六		昭和 一九五〇		昭和 一九五〇	
昭和 一九八五		昭和 一九四九		昭和 一九四九	
昭和 一九八四		昭和 一九四八		昭和 一九四八	
昭和 一九八三		昭和 一九四七		昭和 一九四七	
昭和 一九八二		昭和 一九四六		昭和 一九四六	
昭和 一九八一		昭和 一九四五		昭和 一九四五	
昭和 一九八〇		昭和 一九四四		昭和 一九四四	
昭和 一九七九		昭和 一九四三		昭和 一九四三	
昭和 一九七八		昭和 一九四二		昭和 一九四二	
昭和 一九八七		昭和 一九四一		昭和 一九四一	
昭和 一九八六		昭和 一九四〇		昭和 一九四〇	
昭和					



長崎市の簡略版

ごみの分け方 10

ごみステーションの場所や収集
曜日をQRコードで確認！



■お問い合わせ先 く市外局番は (095) です>



●ごみの減量と正しい分別に努めましょう。リサイクルするものは汚れを取って出しましょう。

**ごみ出し
注意**

- 収集日の朝8時までに指定のごみ袋で出しましょう。
- 地域のごみ出しルールとマナーを守りましょう。
- 一度に出せるごみは1種類につき3袋までです。
- ごみ袋の口は結んでください。はみ出るものは⑩の粗大ごみです。

☎822-8888

環境部廃棄物対策課 829-1159
中央環境センター 855-5371
東部環境センター 830-2137

ごみの分け方 長崎市 検索

収集日	ごみの種類	主なもの
毎週 曜日	① 燃やせるごみ	<ul style="list-style-type: none"> ● 生ごみ (しっかり水切り) ● プラスチック製品 (容器・包装は⑥プラスチック製容器包装へ) ● ゴム・草・布製品 (古着は拠点回収へ) ● 紙くず (古紙②③④は入れないで) ● 木・草類 (枝は束ねて)
毎週 曜日	②③④ 古紙	<ul style="list-style-type: none"> ② 新聞・折込チラシ ③ 本、紙バック ④ 段ボール <p>※種類ごとにヒモでしぼる。ビニールなどの異物はははずす。</p>
毎週 曜日	⑤ 燃やせないごみ	<ul style="list-style-type: none"> ● 金属類 (鍋・釜・やかん・フライパンは資源ごみへ) ● ガラス、陶磁器類 ● 家電製品 <p>※小型家電は資源物回収へ (回収ボックスの入口5X1cmに入るもの)</p>
毎週 曜日	⑥ プラスチック製容器包装	<ul style="list-style-type: none"> ● トレー、パック、カップ、チューブ ● レジ袋、菓子袋など ● ボトル、キャップ、ラベル ● 発泡スチロール、緩衝材 <p>※「容器」と「包装」(中身を使うと要らなくなるもの) だけです。プラスチック製品自体は①燃やせるごみへ</p>
毎週 曜日	⑦ 資源ごみ	<ul style="list-style-type: none"> ● 空きびん、空き缶 (飲料・食品用 (化粧品)) ● ペットボトル (ふた・ラベルは外して⑥プラスチック製容器包装へ) ● 金属製の鍋、釜、やかん、フライパン
随時	⑧ 蛍光管	● 蛍光管 (ごみステーションの蛍光管入れへ) (割れた蛍光管、LED・白熱電球は⑤燃やせないごみへ)
随時	⑨ 筒型乾電池 及びボタン電池	● 筒型乾電池、ボタン電池 (燃焼してごみステーションの電池入れへ) (リチウムイオン電池などの充電電池は、電気店などの回収協力店へ)
自己 搬入 有料	⑩ 粗大ごみ	<ul style="list-style-type: none"> ● 指定袋からはみ出るもの (1m未満の缶のみ⑥燃やせないごみへ) ● 危険性があるもの (着火装置付きなど) ● パソコン、電子レンジ ● 金庫、ミシン <p>※予約回収は1回に2個まで。 ※自己搬入は搬入券の事前申請が必要。</p>

ごみステーションに出せるもの

市では収集できないもの

- 家電4品目 (洗濯機・衣類乾燥機、テレビ、冷蔵庫・冷凍庫、エアコン)
- 処理困難物 (消火器、農薬、リチウムイオン電池類、タイヤなど)
- 多量のごみ (引っ越しごみなど)
- 産業廃棄物 (事業所・商店などから出る法定20品目)

法令で定められているもの・収集や処理が困難なもの

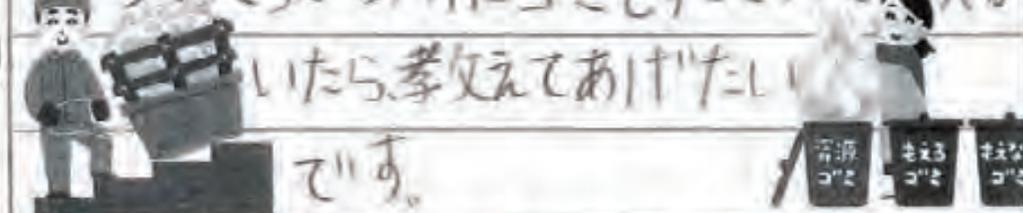
令和4年4月作成版

詳しくは裏面をご覧ください

東工場で 働いているみなさんへ

私は、いつもいつもくさいのをがまんして、おし事をしているなんて私はとてもおどろきました。とてもすごいと思いました。工場の人がおし事をしやすいように私は、おべんとうは最後まで「のこさず」にきれいに「ベッちゃん」ともえる「ゴミ」は「もえるゴミ」「もやせないゴミ」は「もやせないゴミ」とちゃんと「ゴミごと」に分類して、おし事をしやすく、

けがをしないようにがんばりたいし、まちがてちかう所にゴミをすてている人がいたら、教えてあげたいです。



長崎精道小学校 4年(森元 友菜)

保護者のみなさまへ

この本は、長崎市内の小学校3・4年生に配布しています。それは、小学校3・4年生の社会科の総合学習で「市のごみ処理」の学習を行う際に、その学習資料として役立てていただき、子どもの頃から市のごみ処理の実状について理解を深めていただきたいと思います。

この本を小学校3・4年生に限らず1人でも多くの市民の皆さんに読んでいただき、ごみのない住みよいまちづくりに協力していただくことを望んでいます。

また、この本を学校だけでなく、ご家庭でも活用していただき、ご家族の皆さんで環境問題に対する理解を深めていただければ幸いです。

長崎市環境部



さかいで、うめ立て地のごみをつぶしているようす



ペットボトルからリサイクルされたもの



バツカー車がうめ立て地へごみを落とすようす



ごみステーションに出された資源ごみ

くらしとリサイクル

令和5年3月31日発行
 発行 長崎市(環境部)
 TEL 095(829)1159
 FAX 095(829)1218

ねん
年

くみ ね まえ
組 名前

